

「野毛山プール」

副校長 下田 卓

色鮮やかなあじさいの花が梅雨の時候にぴったりと合い、うるおいを感じさせています。毎日暑い日々が続きますが、子どもたちはいろいろな学習や楽しい行事を通してまちの「ひと・もの・こと」から、多くのことを学んでいます。

夏といえば、まず水泳学習が始まりました。「今日は、プールに入れますか」と聞きながら、登校する子どもたち。水着に着替えた子どもたちのうれしそうな声が校舎から職員室まで聞こえてきます。一人ひとりが今年の目標を決めて、取り組んでいるようです。

今から 40 年位も前の話になりますが、私が子どもの頃、6 月下旬から始まる水泳学習が楽しみでした。水泳学習のある日には、朝から一日中落ち着かなくて授業も水泳のことが気になって集中できませんでした。当時、横浜の小学校は児童数が加速度的に増え、校庭のあちこちにはプレハブ校舎が建てられていました。プレハブ校舎の中は連日暑くて（児童数は 1 クラス 45 人でした。）国語の漢字練習や算数の計算練習など頭には入らず、プールの水面上のキラキラした光や白い水しぶき、プールの底の青い色がいつも脳裏にありました。

高学年になり、市の大会に向けての水泳教室には夏休み中、毎日参加しました。当時は細かい指導はなく、ひたすら泳ぐのみでした。おそらく皆は、500 メートル程度は泳いだと思います。当時、私が通っていた N 小学校には体育の熱心な先生がたくさんいました。本校の校長先生であられた横濱先生もそのお一人でした。午前の練習の後、午後プールに入れてくれました。そうやって毎日毎日泳いでいると、手足の筋肉がついてきて、同時にタイムもどんどん良くなってきました。

区の水泳大会記録会では、（当時は泉区でなく戸塚区でしたので H 小学校で行いました。）区で 2 位 39. 8 秒（クロール）の良い記録でした。

市の大会は野毛山プールで行われました。東京オリンピックのために作られたという屋外の 50 メートルプールを生まれて初めて見ました。あまりの大きさと深さにおぼれたらどうしようかと心配になったのを覚えています。そんな訳で、区の大会ほどよい記録が出ませんでした。いい思い出です。手取り足取り細かく教わることも大切ですが、同時に見よう見まねで自らこつを体得することの重要性を水泳から学びました。

今では、あんな自己流の泳ぎで市の大会までよく出ることができたなあと思うのですが、夢中になって続けてやれば何でもできるんだという自信ができました。この自信こそが小学校時代の一番の思い出でした。

もう野毛山プールは無くなりましたが、大人になって野毛山公園にできた展望台から横浜の様子をながめていると、ふとそんな昔を思い出したりします。そんなときには、あのころの子どもたちの笑い声や歓声も同時に聞こえてくるようです。